

HopStepJump 8

<https://toyono-jinjikyo.com/>

人権について考える①
—学級づくりと自尊感情ついて—

あーよかったな 先生になって ～「つながりと感動」、そして「笑顔」～

初任者研修・新規採用者研修第8回はWeb開催（オンデマンド型・リアルタイム型の選択制）で実施しました。講師は、兵庫県西宮市で教員や指導主事を経験され、現在は教育サポーターとして活躍されている仲島正教先生に動画で講義をおこなっていただきました。子どもとの関わり方や温かいつながりについて数々のエピソードと共に、仲島先生のこれまでの実践をもとに人権教育を基盤とした子ども理解や集団づくりについてお話していただきました。2学期の始業前・始業して早々の時期に子どものことやクラスのこと、さらには学校で働く「先生」という仕事について考える機会になりました。（以下は、振り返りシートの抜粋です。）

人権教育と聞くと難しいイメージでしたが、「優しい人になることである」という言葉を聞き、ゴールが明確になったように感じました。優しい人になるためにはどうすればいいのかが、何が必要なかを考えながら生徒に伝えていきたいと思いました。優しさや愛を心の銀行に貯金することで優しい人になれる、その貯金は将来しんどい場面で踏ん張るために使える、またその貯金は人に分けてあげることができるという言葉がとても分かりやすく、そのまま生徒に伝えたいと思いました。また、生徒は教師や大人の姿をよく見ているというお話から、間違えたら謝ることなど当たり前のことを、学校の中だけでなく、大人として、人としていいお手本になれるよう心がけていきたいと思いました。

人権を学ぶとは、人と人との温かいつながりを感じることで学ぶことができました。この温かいつながりから笑顔も生まれ、人権教育へとつながっていくのだと感じました。仲島先生自身がとても素敵な笑顔でお話していて、安心して講義を受けることができました。先生自身が笑顔でいると子どもたちのやる気や安心につながると感じました。そして、笑顔が安心材料となり、心の距離を近づけるのだと感じました。

「子どもにとって一番大切なのは今と未来である。大人は過去にこだわりすぎている。」という言葉が印象に残りました。先生の実体験を聞き、私の一学期の言動を振り返ると、子どもたちの過去と現在を比較してしまっていたように感じました。成長した部分やよく頑張った部分に関しては過去を振り返ることも必要なかもしれませんが、課題についてはもっと未来志向で前向きな姿勢で子どもたちのことを見ていきたいと思いました。

私は事務職員として勤務していますが、今回の講義で「かまぼこ先生にならないでほしい」、「教育とは足でかせぐもの」という言葉が印象に残りました。黒板の前から離れない「かまぼこ先生」を事務職員に置き換えると、「事務室から離れない」ではないかと考えました。事務職員の業務は事務室で行うことが多いですが、教職員との会話で気になった時には一緒に現場まで行ってみたり、普段から学校を見て回る時間をつくったりすることが大切ではないかと考えました。また、一学期にはできなかったのですが、校内の先生方がどんな授業をしているのか二学期以降は見に行ってみたいと思います。

特に大切に意識していこうと思ったことは、「自分から動く」ことです。「かまぼこ先生」などの話がありましたが、授業中もそうですし、それ以外でも言えることだと感じました。私は教員採用試験のときに、教員になって大切にしたいこととして、「毎日一人ひとりと話す」と言いましたが、正直一学期はあまりできていなかったです。自分から子どもたちに話しかけることを意識していきたいです。



自分の「あり方」について振り返り、考えることは大切なことです。慌ただしく一日が終わり、気づけば一学期が終わり、果たして自分を見つめ直す時間がどれだけあったことでしょうか。内省や自己への問いかけこそ学び続けるということなのかもしれません。

今回の講義は、「今の自分」、「これからの自分」について考える機会になったことでしょうか。一学期のようすと結びつけ、今回の研修で理解できたことや、新たに考えたこと、思いついたことをもとに、まずはやってみて、そこから気づいたことや分かったことを確実に自分の中に溜めていってください。気づけば今年度も折り返しです。これからも試行錯誤する自分を大切にしてください。そして、自分自身が未来志向・上昇志向で過ごしてください。前向きな姿は必ず周りによい影響を与えます！！

8つの実践例を教えてくださいましたが、栄養教諭の視点で絵本の読み聞かせは積極的に取り入れていきたいと思いました。食べ物に関する絵本はたくさんあり、絵本で見たものは想像しやすいと思うので、今後食育に取り入れられる絵本を探していきます。また、担任の先生方が教室で読み聞かせした本などと関連づけて、給食でも「絵本給食」ができるので、積極的に担任と連携をしながら、給食にも取り入れていきたいと思いました。

8つの実践例を聞いて、早速「先生に言いたいこと」をやりました。「水泳8級合格した！」「もうすぐピアノの発表会！」「△△ちゃんとしゃべりたい！」など、意外な一面や頑張っているようすが見られました。子どもたちのことを知り、距離が近くなった気がしてとても嬉しかったです。これからも隙間時間にやってみて、私と子ども、子ども同士をつなげることができたらいいなと思います。

講義の中で最も印象に残った言葉は、「ちょっとしたわざわざが人の心を動かす」です。1学期の間で、これはやったほうがいいことなのかを考え、迷ったことがありました。子どもへの声かけ、保護者の方への連絡、他の先生方への相談や報告など、迷ったときはするようにしたいと思いました。相手のことを考え、子どものよいところを積極的に伝えていくことで日々のコミュニケーションがとりやすくなるようにしたいと思います。

仲島先生に教わった「ちょっとしたわざわざが人の心を動かす」が今回の一番の学びです。つい、楽な方へ行きがちだったので、デスクトップにこのフレーズを書いて、見えるようにしました。もちろん、自分も大切なので、体と心を壊さないように気をつけながら頑張っていきます。

まさに「ちょっとしたわざわざ」ですね！よい心がけ・工夫だと思います。その意識が周りの人たちとの関係性をよくすることにつながると信じています！！



今後のオンライン研修(リアルタイム型実施)にむけて

初任者・新規採用者研修の第11回(11/15・11/24)は、Zoomを活用したオンラインでの実施(リアルタイム型開催)を予定しています。今回は【選択制】だったため、次回初めてオンラインで研修受講をする方もいるかと思えます。参考になるように、オンライン受講に関する振り返りも掲載します。

動画を視聴した後に、「ブレイクアウトルーム」を使用してグループ交流を行うことができたので、よいアウトプットにつながりました。また、市や校種の違うグループだったので、より有意義な意見交流になりました。

Zoomでの開催で、なかなかグループワークで他の先生方と距離感がつかめず、序盤は黙り込むことが多くなってしまいましたが、終盤には多くお話ができたので、次のオンライン研修ではその空気感で臨んでいきたいです。

リアルタイム型実施では、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を活用して3～4名でのグループ交流をおこないます。集合型とは勝手が違い、オンライン特有のやりづらさは少なからずあると思いますが、活発な交流は心意気次第です。それぞれの所属市町のようにや校種、さらには職種(養護教諭・栄養教諭・学校事務職員)などをふまえて、たくさんの意見交流・情報交換がお互いにできるようにしましょう。

オンライン研修、受講のポイント！(事前にできること・準備編)

- 一、研修資料はWebページから事前にダウンロード、印刷して用意すべし！
- 一、当日受講する際に使用する部屋(教室など)を確保すべし！
- 一、使用する端末(PC・iPadなど)の充電残量を確認すべし！
- 一、グループ交流は貴重なアウトプットの場！積極的に発言すべし！



備えていても不具合はあります…。そのときは慌てず、一度ミーティングルームを退出し、再接続するなど各自ご対応ください。事前に「実施マニュアル」を送付しますので参考にしてください。

操作に不安のある人は、下記の日程で「初任者・新規採用者同士のオンライン交流会」を実施しますので、接続テストと兼ねてお気軽にご参加ください。ミーティングルームへの接続や、マイクやカメラなど実際の使用感を確認できる機会です。(詳細等は追って連絡します。)

11月8日(火)、18日(金)*15:15~16:45にミーティングルームを開設

- ・参加自由、事前の申し込みはいりません。 ・Zoomでの研修を事前に体感できます。
- ・途中入室、途中退室が可能なので、ご都合のよいときに接続(参加)できます。